実務経験のある教員等による授業科目の一覧（救急救命学科）

科目名	実務経験	授業時数（h）
ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習Ⅰ	救急救命士として消防勤務経験	315
ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習Ⅱ	救急救命士として消防勤務経験	585
ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習Ⅲ	救急救命士として消防勤務経験	405
合計		1305

全ての成績評価は、80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。

救　急　救　命　学　科

SYLLABUS

【2023年度】

湘央生命科学技術専門学校

科目名	基礎数学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	数学的スキルを身に付け、科学的思考の基盤を身に付ける。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	授業中に資料を配付する。				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	小数と分数 正負の数	小数と分数 倍数と約数 正負の和と差 正負の商と積 四則計算	小数から分数、分数から小数に変換できるようにする 最小公倍数、最大公約数を理解する 正負の四則計算できるようにする
2	単位変換 方程式	長さ、重さ 面積、体積、割合 一次方程式、連立方程式	基本的な単位について理解する 一次方程式、連立方程式について理解する
3	文章問題	速さ・時間・距離、割合 濃度、輸液速度、酸素残量	自分で式を立て、計算できるようにする
4	文章問題	濃度、輸液速度、酸素残量 その他の文章問題	自分で式を立て、計算できるようにする

科目名	一般化学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	ダイナミックワイド　図説化学　　東京書籍				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	物質の状態	物質の状態変化	物質の三態を理解する
2	物質の構造	原子と分子 電子配置	原子の構造、周期表を理解する 電子配置、化学結合、化学反応式を理解する
3	物質の化学変化	酸化と還元	酸化と還元、酸化剤と還元剤を理解する
4	物質の状態	濃度	パーセント濃度、モル濃度を理解する
5	有機化合物	有機化学	有機化合物を理解する

科目名	危険物取扱法	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	2023 年度版　乙4類　危険物取扱者受験教科書（向学院）				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	危険物に関する法令	危険物とは 危険物に関する手続き	消防法上の危険物、手続きについて理解する
2	危険物に関する法令	危険物取扱者制度 災害の予防 各種命令	危険物取扱者制度、予防規程、各種命令について理解する
3	危険物に関する法令	標識・掲示板 消火設備 貯蔵・取扱い・運搬の基準	標識・掲示板、消火設備、貯蔵等の基準について理解する
4	物理・化学の基礎	基礎的な物理 燃焼の理論 消火の理論	危険物に関連する基礎的な物理学について理解する 危険物に関連する燃焼理論・消火理論について理解する
5	危険物の性質と 火災予防・消火の方法	危険物の性質 第4類危険物 その他の危険物	第1類から第6類危険物の概要を理解する 第4類危険物の各論について理解する

科目名	毒物劇物管理学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	毒物劇物取扱者合格教本				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	法規		毒物劇物取締法を理解する。
2	法規		毒物劇物取締法を理解する。
3	基礎化学		毒物劇物取扱者試験に対応する基礎化学分野を理解する。
4	基礎化学		毒物劇物取扱者試験に対応する基礎化学分野を理解する。
5	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
6	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
7	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。
8	性質、取扱、実地		毒物劇物の性質、取扱を理解する。

科目名	統計学概論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	統計とは、統計学について	統計学について理解する
2	各論	代表値・標準偏差	統計学各論に関して学ぶ
3	各論	変動係数、母平均の推定	統計学各論に関して学ぶ
4	各論	平均値の比較、百分率の比較	統計学各論に関して学ぶ
5	各論	相関関係	統計学各論に関して学ぶ

科目名	医用電子工学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	医療従事者として必要な科学的思考及び教養を身につける。生命に関わる科学の基礎を理解し、疫学的な考察力を培うとともに情報化社会に対応できる知識を習得する。				
教育内容	科学的思考の基盤				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版 ， PowerPoint 資料				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	漏れ電流 ECMO IABP	救急領域で使用する ME 機器について理解する
2	各論	パルスオキシメータ 輸液ポンプ シリンジポンプ カプノメータ	救急領域で使用する ME 機器について理解する
3	各論	自動血圧計 心電図 除細動器 ペースメーカー	救急領域で使用する ME 機器について理解する
4	各論	人工呼吸器 人工透析	救急領域で使用する ME 機器について理解する

科目名	文章表現法	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	医療従事者としての必要な科学的思考及び教養を身に付ける。文章表現の基礎知識を習得し、考えや思いを相手に伝わるように出来る。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	敬語、熟語、医療漢字	敬語、熟語、医療漢字について理解する
2	各論	手紙を書く	手紙の書き方について理解する
3	各論	慣用句	慣用句について理解する
4	各論・まとめ	新聞記事要約	まとめ、新聞記事を要約する力を身につける

科目名	行動科学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	生命倫理と医の倫理	救急救命士に求められる倫理観を理解する
2	各論	脳死と臓器移植	脳死・臓器移植に関する倫理問題を議論する
3	各論	安楽死・尊厳死	安楽死・尊厳死に関する倫理問題を議論する
4	まとめ	脳死、臓器移植とその問題 一般常識としての倫理学	生命に正しく向き合う態度とは何かを模索する

科目名	倫理学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	テキスト不使用				
評価法	参加態度、レポートによる評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	倫理学総論 いのちについて考える①	倫理学総論を理解する。
2	各論	病気・障害について考える	病気と障害について理解する。
3	各論	患者さんの人権・意思決定について考える	患者さんの人権・意思決定について理解する。
4	応用	総合学習	医療従事者を取り巻く倫理問題に関して調べ、発表する。

科目名	心理学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	プリント使用				
評価法	レポートによる評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	心理学総論	「こころ」で見る世界 自己について コミュニケーションについて	心理学総論について理解する。
2	各論	自己理解	自己理解について理解する。
3	各論	自己表現	自己表現について理解する。
4	各論	ストレスマネージメント ストレスについて リラクゼーションについて	ストレスマネージメントについて理解する。
5	各論	カウンセリングから学ぶ 「人とのかかわり」 話の聞き方 エンカウンター・エクササイズ	カウンセリングについて理解する。

科目名	英語	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	体の名称	An Introduction to the Mind and Body	人体の名称の英語表記を理解する。
2	医学用語	General Medical Terminlogy	医学用語の英語表記を理解する。
3	英語で学ぶ解剖学	1 The Cardiovascular System 2 The Lymphatic System 3 The Respiratory System 4 The Digesive System 5 The Skeletal System	各臓器について英語表記を理解する。
4	まとめ	医学用語の英語表現について	医学用語の英語表現について理解する。

科目名	医療英語	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。 実技試験により評価				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	医療略語について	医療略語について学ぶ
2	各論	救急救命士に関わる英語 バイタルサイン	救急救命士に関する英語を身につける バイタルサインに関する英語を身につける
3	各論	英語による救急活動	英語による救急活動を行う。
4	各論	評　価	救急領域で使用されている英語を身につける

科目名	人間発達学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	1. 医療の対象である人間の発達に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化を理解する。 2. 発達に伴う各年代とのコミュニケーションを取るため特徴を理解する。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	授業中に資料を配付する。 参考図書:看護のための人間発達学第 5 版　船島なをみ著　医学書院				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	人間発達とは 発達、成長および老化	人間発達学総論を理解する。 成長と発達について理解する。
2	各論	胎児期～学童期	胎児期～学童期までの身体的変化、生理学的変化およびその特徴を理解する。
3	各論	思春期～老年期	思春期～老年期までの身体的変化、生理学的変化およびその特徴を理解する。
4	各論	発達・成長とコミュニケーション	発達・成長に伴うコミュニケーションの特徴を理解する。

科目名	一般教養Ⅰ	授業方法	国広重則、山田貴史 矢倉行雄	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	4 単位	授業時間	60 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	一般教養オリジナルテキスト				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	国語分野①	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
2	国語分野②	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
3	国語分野③	国語の醸成	一般常識範囲を学び理解する。
4	社会・倫理分野①	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
5	社会・倫理分野②	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
6	社会・倫理分野③	政治、経済及び世界情勢	一般常識範囲を学び理解する。
7	法令の基礎①	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
8	法令の基礎②	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
9	法令の基礎③	日本国憲法、政令、条例等	一般常識範囲を学び理解する。
10～11	理数分野①	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。
12～13	理数分野②	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。
14～15	理数分野③	理数分野	一般常識範囲を学び理解する。

科目名	一般教養Ⅱ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	4 単位	授業時間	60 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	一般教養オリジナルテキスト				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	実践国語	漢字の成り立ち	感じについて学ぶ。
2		四字熟語	四時軸後を学ぶ。
3		現代文と古文	現代文と古文について理解する。
4	実践社会科	地理	地理に関して学び理解する。
5		歴史	歴史に関して学び理解する。
6		倫理	倫理に関して学び理解する。
7		経済	経済に関して学び理解する。
8	実践法令	憲法	憲法に関して、学び理解する。
9		地方自治法	地方自治法を理解する。
10～11		主要な法令	法令に関して理解する。
12～13	実践理数	数学	数学の理解をする。
14～15		理科科目	理科科目を演習、理解する。

科目名	体育	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	人間性を磨き、自由で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身に付ける。				
教育内容	人間と人間生活				
教科書・教材	テキスト不使用				
評価法	出席状況、レポートなどによる総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	体力強化のコツと注意点	体力強化について理解する。
2	総論	スポーツテストについて	スポーツテストにおけるポイントと注意点を理解する。
3	各論	スポーツテスト（シャトルラン、立ち幅跳び、上体起こし）	正確に計測を行う。
4	各論	スポーツテスト（長座前屈、握力、反復横跳び、PUSH UP）	正確に計測を行う。
5	各論	球技競技	体力増強を行う。
6	各論	球技競技	体力増強を行う。
7	各論	基礎トレーニング法1	基礎トレーニング法を学び実践出来る。
8	各論	基礎トレーニング法 2	基礎トレーニング法を学び実践出来る。

科目名	解剖・生理学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	4 単位	授業時間	60 時間
教育目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	人体の構造と機能				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	解剖学総論	解剖学の歴史 人体構造について	解剖学の歴史、人体の構造について理解する
2	解剖学各論1	骨系 1	骨系の解剖について理解する
3	解剖学各論2	骨系 2	骨系の解剖について理解する
4	解剖学各論3	筋系 1	筋系の解剖について理解する
5	解剖学各論4	筋系 2	筋系の解剖について理解する
6	解剖学各論5	呼吸器系 内分泌系	呼吸器系の解剖について理解する 内分泌系の解剖について理解する
7	解剖学各論6	消化器系	消化器系の解剖に関する知識を理解する
8	解剖学各論7	消化器系	消化器系の解剖に関する知識を理解する
9	解剖学各論8	循環器系	循環器系の解剖に関する知識を理解する
10	解剖学各論9	循環器系	循環器系の解剖に関する知識を理解する
11	解剖学各論 10	血液系 皮膚・毛・爪	血液系の解剖に関する知識を理解する 皮膚・毛・爪の解剖に関する知識を理解する
12	解剖学各論11	神経・感覚系	神経・感覚系の解剖に関する知識を理解する

13	解剖学各論12	神経・感覚系	神経・感覚系の解剖に関する知識を理解する
14	解剖学各論13	泌尿器系	泌尿器系の解剖に関する知識を理解する
15	解剖学各論14	生殖器系	生殖器系の解剖に関する知識を理解する

科目名	生化学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	人体の構造と機能及び心身の発達に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	人体の構造と機能				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	生化学総論	生化学を学ぶにあたって 酸と塩基	生化学総論を理解する
2	生化学各論	糖質	糖質ついて理解する
3	生化学各論	タンパク質	タンパク質について理解する
4	生化学各論	脂質	脂質について理解する
5	生化学各論	ホルモン	ホルモンについて理解する
6	生化学各論	ホルモン ビタミンと補酵素	ホルモンについて理解する。 ビタミン、補酵素について理解する
7	生化学各論	酵素 核酸	酵素について理解する 核酸について理解する
8	生化学各論	核酸 水と無機質	核酸について理解する 水、無機質について理解する

科目名	病理学・法医学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	病理学総論	病気と病理学 老化と死 生体の基本反応	病理学総論について理解する
2	病理学総論	生体の基本反応 先天異常 様々な病因と病気	病理学総論について理解する
3	病理学各論	循環器疾患 呼吸器疾患 消化器疾患	循環器、呼吸器、消化器疾患について理解する
4	病理学各論	その他の疾患	中枢神経疾患、運動器疾患等について理解する
5	法医学総論	法医学の歴史 法医解剖の種類 異状死体 創傷総論	法医学総論について理解する
6	法医学各論	死体現象	死体現象について理解する
7	法医学各論	創傷各論 交通事故損傷	創傷、交通事故損傷について理解する
8	法医学各論	法医中毒	法医中毒について理解する

科目名	感染と免疫	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	上巻Ⅱ編第 2 章 3 炎症と感染、上巻Ⅲ編第 1 章 10 感染対策				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	感染症総論	感染とその予防について 感染症の予防について	感染症の予防について理解する。
2	感染症各論	主な感染症	主な感染症について理解する。
3	〃	感染予防の原則	感染予防の基礎を理解する。
4	〃	職毒と滅菌 救急車の資器材の消毒	消毒と滅菌について理解する。
5	〃	感染性廃棄物の処理 搬送中の感染予防	感染性廃棄物の処理について理解する。
6	〃	疾病の成り立ち 炎症と感染	炎症と感染について理解する。
7	〃	実験・検証1 消毒駅の効果	手洗い実習に関して、実験方法に従い実験を行う。
8	〃	実験・検証2 消毒液の効果・常在菌	常在菌のついて、顕微鏡を用いて観察を行いその形態や特製について理解する。

科目名	薬理学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	2 単位	授業時間	30 時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	救急救命士と薬理学	薬理学総論について理解する
2	総論	医薬品について	薬物の体内動態、薬の投与経路について理解する
3	各論	薬物の有害作用	薬物中毒、薬物アレルギーについて理解する
4	各論	重要な医薬品	救急救命士に関わる医薬品について理解する
5	各論	重要な医薬品	救急救命士に関わる医薬品について理解する
6	各論	重要な医薬品	救急救命士に関わる医薬品について理解する
7	まとめ	復習	今までの内容を振り返る
8	まとめ	復習	今までの内容を振り返る

科目名	検査診断	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	疾病及び障害に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾患の成り立ちと回復の過程				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	検査診断	総論	検査の目的と種類、基準値等について理解する
2	検査診断	各論	検体検査について理解する
3	検査診断	各論	生理学的検査について理解する
4	検査診断	各論	画像検査について理解する
5	放射線医学	総論	放射線の種類、性質を理解する
6	放射線医学	各論	放射線の人体への影響、放射線防護について理解する

科目名	公衆衛生学	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	公衆衛生の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
教育内容	健康と社会保障				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	健康と公衆衛生	公衆衛生総論について理解する。
2	各論	医療を取り巻く環境	公衆衛生各論について理解する。
3	各論	医療供給体制	公衆衛生各論について理解する。
4	各論	さまざまな保健衛生	公衆衛生各論について理解する。

科目名	社会保障・社会福祉	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1 単位	授業時間	15 時間
教育目標	社会保障・社会福祉の基本的考え方を理解し、国民の健康及び地域・環境保健、医療及び福祉についての知識を習得する。				
教育内容	健康と社会保障				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験、レポート課題による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	社会保障制度の概要 公的扶助	社会保障の諸制度、生活保護制度について理解する
2	各論	医療保険制度	医療保険制度について理解する
3	各論	介護保険制度 労働保険制度	介護保険制度、労働保険制度の仕組みについて理解する
4	まとめ	年金保険制度 まとめ	これまで学習した社会保障について復習する

科目名	救急医療概論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急災害医療Ⅰ	総論	救急災害医療について理解する
2	救急災害医療Ⅰ	災害の概念	災害の概念について理解する
3	救急災害医療Ⅰ	多数傷病者対応	多数傷病者対応について理解する。
4	救急災害医療Ⅱ	トリアージ	トリアージについて理解する。
5	救急災害医療Ⅱ	大規模災害	大規模災害について理解する。
6	救急災害医療Ⅱ	特殊災害	特殊災害について理解する。
7	看護学概論	救急看護の役割	救急看護について理解する。
8	看護学概論	傷病者への接遇	傷病者への接遇を学ぶ。
9	看護学概論	看護の理念 救急医療における看護	看護の理念、救急看護における特徴を理解する。

科目名	患者搬送法	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	患者搬送Ⅰ	救急活動の基本	救急活動について理解する
2	患者搬送Ⅰ	救急隊と救急車 状況評価、初期評価	状況評価、初期評価について理解する
3	患者搬送Ⅰ	救急隊のコミュニケーション 医療機関選定	病院選定について理解する
4	患者搬送Ⅰ	搬送における注意点 救急資器材とその消毒	救急資器材について理解する
5	患者搬送Ⅰ	活動記録について	活動記録について理解する
6	患者搬送Ⅱ	医療従事者とは 救急救命士とは	医療従事者としての救急救命士の位置付けを理解する
7	患者搬送Ⅱ	救急医療における 救急救命士の役割	救急救命士について理解する
8	患者搬送Ⅱ	傷病者接遇 ストレスマネージメント	傷病者、関係者接遇のポイントを理解する ストレスマネージメントを理解する

科目名	救急処置法	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年後期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版 ， 配布プリント				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急救命士が行う処置	処置の目的と意義 気道確保 気道異物除去 口腔内の吸引	処置の目的と意義について理解する 気道確保の方法について理解する 気道異物除去の方法について理解する 口腔内の吸引方法について理解する
2	救急救命士が行う処置	声門上気道デバイスを用いた気道確保 気管挿管 気管吸引	器具を用いた気道確保について理解する 気管挿管について理解する 気管内吸引について理解する
3	救急救命士が行う処置	酸素投与 人工呼吸 自動式心マッサージ器の使用 除細動	酸素投与の方法について理解する 人工呼吸の方法について理解する 自動式心マッサージ器の使用方法について理解する 除細動器の使用方法について理解する
4	救急救命士が行う処置	静脈路確保と輸液 アドレナリン投与	静脈路確保の方法について理解する アドレナリンの投与方法について理解する
5	救急救命士が行う処置	体位管理 体温管理 止血 創傷処置 固定	体位管理の方法について理解する 体温管理の方法について理解する 止血の方法について理解する 創傷処置の方法について理解する 固定の方法について理解する
6	救急蘇生法	救急蘇生法の概要 救急蘇生法の実際	成人・小児・乳児の救急蘇生法について理解する
7	救急蘇生法	心肺停止の原因と治療	心肺停止の原因と治療について理解する
8	救急救命士が行う処置	胸骨圧迫 自動式心マッサージ器の使用 電気ショック	胸骨圧迫について理解する 自動式心マッサージ器の使用方法について理解する 除細動器の使用方法について理解する

9	救急救命士が行う処置	静脈路確保と輸液 アドレナリン投与 ブドウ糖の投与	静脈路確保の方法について理解する アドレナリンの投与方法について理解する ブドウ糖の投与方法について理解する
10	救急救命士が行う処置	気道確保 気道異物除去	気道確保の方法について理解する 気道異物除去の方法について理解する
11	救急救命士が行う処置	口腔内の吸引 声門上気道デバイスを用いた気道確保	口腔内の吸引方法について理解する 器具を用いた気道確保について理解する
12	救急救命士が行う処置	気管挿管 気管吸引	気管挿管について理解する 気管内吸引について理解する
13	救急救命士が行う処置	酸素投与 人工呼吸	酸素投与の方法について理解する 人工呼吸の方法について理解する
14	救急救命士が行う処置 傷病者搬送	体位管理 体温管理 止血 創傷処置 固定 傷病者搬送	体位管理の方法について理解する 体温管理の方法について理解する 止血の方法について理解する 創傷処置の方法について理解する 固定の方法について理解する 傷病者搬送の方法について理解する
15	救急救命士が行う処置 在宅療法継続中の傷病者の処置	産婦人科領域の処置 在宅医療（療養）	産婦人科領域の処置について理解する 在宅療法継続中の傷病者の処置について理解する

科目名	救急医療特論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する。				
教育内容	救急医学概論				
教科書・教材	上下巻該当ページ(1 生命倫理と医の倫理、2 救急医療体制、3 病院前救護体制、5 救急救命士の役割と責任、6 救急救命しに関する法規、7 災害医療、11 処置総論、12 処置各論、13 在宅療養者に対する処置、18 救急救命士と傷病者との関係)				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	循環器疾患1	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
2	循環器疾患2	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
3	呼吸器疾患	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
4	呼吸器疾患	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
5	観察学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
6	産婦人科特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
7	消化器疾患特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
8	精神疾患特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
9	一般外傷特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
	中毒学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	

11	環境障害特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
12	頭部外傷特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
13	症例検討	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
14	病態学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
15	薬理学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
16	救急処置特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
17	解剖学特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	
18	災害救急特論	循環器疾患症例 循環器疾患の観察と対応	

科目名	観察と評価	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	3 単位	授業時間	90 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急医学総論 1		救急医療全体について理解する
2	救急医学総論 2		救急医療全体について理解する
3	観察総論	観察の目的と意義 バイタルサイン 観察の方法	観察の総論について理解する
4	全身状態の観察	意識状態に関する観察	意識状態の観察について理解する
5	神経所見の観察	運動機能 感覚 髄膜刺激症候 失語症と構音障害 脳卒中スケール 神経学的異常の観察方法	神経所見の観察について理解する
6	全身状態の観察	外見の観察 気道に関する観察 呼吸に関する観察	外見、気道、呼吸状態の観察について理解する
7	全身状態の観察	外見の観察 気道に関する観察 呼吸に関する観察	外見、気道、呼吸状態の観察について理解する
8	全身状態の観察	循環に関する観察	循環に関する観察について理解する
9	全身状態の観察	循環に関する観察	循環に関する観察について理解する

10	資器材による観察	聴診器 血圧計 体温計	聴診器、血圧計、体温計に関する観察について理解する
11	資器材による観察	パルスオキシメータ カプノメータ 心電図モニター	パルスオキシメータを用いた観察について理解する カプノメータを用いた観察について理解する 心電図モニターを用いた観察について理解する
12	消防機関における救急活動の流れ	現場活動	状況評価～医師への引き継ぎまでを理解する
13	緊急度・重症度判断	緊急度と重症度 判断の基準	緊急度と重症度の概念を理解する 緊急度・重症度の判断を行えるようにする
14	資器材による観察	血糖測定器 （ブドウ糖の投与）	血糖測定器を用いた観察について理解する （ブドウ糖投与の手順等を理解する）
15	局所の観察	観察結果の表現 皮膚 頭部・顔面・頸部	観察結果を伝えられるようにする 皮膚の色調や状態について理解する 頭部・顔面・頸部に関する観察について理解する
16	局所の観察	胸部・背部	胸郭の状態、呼吸音、心音について理解する
17	局所の観察	腹部	腹部に関する観察について理解する
18	局所の観察	鼠径部・会陰部・骨盤 四肢 手指・足趾・爪 各種病態の観察アルゴリズム	鼠径部・会陰部・骨盤に関する観察について理解する 四肢に関する観察について理解する 手指・足趾・爪に関する観察について理解する 各種病態の観察アルゴリズムについて理解する
19	呼吸困難	定義・概念～現場活動	吸気性呼吸困難と呼気性呼吸困難の違いを理解する
20	胸痛	定義・概念～現場活動	体性痛と内臓痛の違いを理解する
21	腹痛	発生機序～現場活動	体性痛と内臓痛の違いを理解する
22	腰痛・背部痛	定義・概念～現場活動	筋・骨格系疾患と内臓、心・大血管疾患の違いを理解する
23	体温上昇	定義・概念～現場活動	発熱と高体温の違いを理解する

科目名	心肺停止Ⅰ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1年前期	授業単位	1単位	授業時間	30時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第10版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	定義と概念 疫学 ウツタイン様式に基づく記録方法	心肺停止総論を理解する。
2	各論	一次救命処置	一次救命処置について理解する。
3	各論	心電図分類	心肺停止の波形について理解する。
4	各論	心肺停止に至る病態と原因 心肺蘇生中の循環	5H5Tを理解する 心肺蘇生中の循環動態について理解する
5	各論	心肺停止に至る病態と原因 心肺蘇生中の循環	心肺停止をきたすそれぞれの疾患について理解する 心肺蘇生中の循環動態について理解する
6	各論	心拍再開後の病態	自己心拍再開後の病態、病院内での治療方法を理解する
7	まとめ	総復習	これまで学習してきた内容を振り返る
8	まとめ	国家試験練習問題	国家試験の過去問題を通して今までの内容を振り返る

科目名	心肺停止Ⅱ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	上巻Ⅲ編第3章　5. 心肺停止				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	Prehospital Care の evidence	Prehospital Care の evidence を理解する。
2	〃	除細動に関する evidence	除細動に関する evidence を理解する。
3	〃	気道確保に関する evidence	気道確保に関する evidence を理解する。
4	〃	特定行為と メディカルコントロール1	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
5	〃	特定行為と メディカルコントロール2	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
6	〃	特定行為と メディカルコントロール3	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
7	〃	特定行為と メディカルコントロール4	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。
8	〃	特定行為と メディカルコントロール5	救急救命士の活動プロトコールについて理解する。

科目名	症候と病態Ⅰ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	意識障害	重症脳障害	一次性脳病変と二次性脳病変の違いを理解する
2	意識障害	重症脳障害	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニアについて理解する
3	意識障害	意識障害	意識障害の鑑別方法について理解する
4	意識障害	頭痛	一次性頭痛と二次性頭痛の違いを理解する
5	痙攣等	痙攣	痙攣について理解する
6	痙攣等	運動麻痺	運動麻痺について理解する
7	痙攣等	めまい	めまいについて理解する
8	痙攣等	一過性意識消失と失神	失神について理解する

科目名	症候と病態Ⅱ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	ショック	ショック総論	ショック全般について理解する
2	ショック	血液分布異常性ショック	アナフィラキシーショックについて理解する 敗血症性ショックについて理解する 神経原性ショックについて理解する
3	ショック	心原性ショック 心外閉塞・拘束性ショック	心原性ショックについて理解する 心外閉塞・拘束性ショックについて理解する
4	ショック	循環血液量減少性ショック	循環血液量減少性ショックについて理解する
5	出血	出血総論	出血全般について理解する
6	出血	頭蓋内出血 鼻出血	頭蓋内出血について理解する 鼻出血について理解する
7	出血	喀血 吐血・下血	喀血について理解する 吐血・下血について理解する
8	出血	血尿 性器出血	血尿について理解する 性器出血について理解する

科目名	症候と病態Ⅲ	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第2章　7.救急救命士が行う処置（M:静脈路確保と輸液、N:アドレナリン投与、O:自己注射用アドレナリンの投与、P:ブドウ糖の投与）				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	薬剤投与	薬剤投与の解剖生理	薬剤投与の解剖生理について理解する。
2	心肺停止	前後の病態生理	心肺停止の病態生理について理解する。
3	心停止と薬剤	心停止の病態 致死的不整脈	心停止の病態について理解する。
4	薬剤投与の基礎	投与経路と方法	投与経路と方法似ついて理解する。
5	〃	薬剤投与の原則 心停止に用いる薬剤	薬剤投与の原則を理解する。
6	薬剤投与の実際	スタンダードプレコーションと 清潔操作	感染対策似ついて理解する。
7	〃	薬剤投与プロトコール	薬剤投与プロトコールについて理解する。
8	〃	院内で行われる 二次救命処置	院内で行われる二次救命処置について理解する。

科目名	救急症候・病態学特論	授業方法	講義、	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	各種疾患の症候・病態生理について理解し、症候・病態ごとに観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	救急症候・病態生理学				
教科書・教材	解剖学、薬理学、生化学、観察、心肺停止と薬剤、病態学にかかる部分				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	解剖学特論	骨格系、筋系	解剖ついて理解する。
2	〃	神経系、呼吸器系	解剖ついて理解する。
3	〃	消化器系、内分泌系	解剖ついて理解する。
4	薬理学特論	ACLSで用いる薬剤	ACLSで用いる薬剤について理解する。
5	〃	ACLSで用いる薬剤	ACLSで用いる薬剤について理解する。
6	生化学特論	エネルギー代謝	生化学分野について理解する。
7	〃	糖新生	生化学分野について理解する。
8	観察特論	現場活動における観察要領1(虚血性心疾患	現場活動における観察要領似ついて理解する。
9	〃	現場活動における観察要領2(脳卒中)	現場活動における観察要領似ついて理解する。。
10	〃	現場活動における観察要領3(環境障害)	現場活動における観察要領似ついて理解する。。
11	〃	現場活動における観察要領4(消化器疾患)	現場活動における観察要領似ついて理解を深する。。
12	心肺停止と薬剤	ICLS総論	ICLSについて理解する。

13	〃	ICLS各論	ICLS似ついて理解する。
14	病態学特論	救急疾患の病態1 呼吸不全	救急疾患の病態について理解する。
15	〃	救急疾患の病態1 心不全・ショック	救急疾患の病態について理解する。
16	〃	救急疾患の病態1 重症脳障害	救急疾患の病態について理解する。

科目名	呼吸器系疾患	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第3章　1.呼吸不全、下巻Ⅲ編第5章　2.呼吸器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	呼吸器疾患総論	主要症候 基本対応	呼吸器疾患総論について理解する。
2	呼吸不全	定義 CO2ナルコーシス	呼吸不全について理解する。
3	上気道疾患	急性喉頭蓋炎	上気道疾患について理解する。
4	下気道と肺胞疾患	気管支喘息 COPD、気管支拡張症	下気道疾患について理解する。
5	感染症	肺炎、結核	呼吸器感染症に関して理解する。
6	胸膜疾患	気胸 緊張性気胸	気胸、緊張性気胸について理解する。
7	その他の疾患	肺血栓塞栓症 過換気症候群	呼吸器疾患について理解する。
8	その他の疾患	ARDS 間質性肺炎	呼吸器疾患について理解する。

科目名	循環器系疾患	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第3章　2.心不全　下巻Ⅲ編第4章　10.動悸　下巻Ⅲ編第5章　3.循環器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	循環器の解剖	構造と機能	循環器の解剖生理を理解する。
2	観察と判断	症状の特徴 心不全	循環器疾患の観察の POINT を理解する。
3	主な疾患	虚血性心疾患 急性冠症候群	循環器疾患を理解する。
4	〃	急性心筋梗塞	循環器疾患を理解する。
5	〃	心タンポナーデ 肺水腫	循環器疾患を理解する。
6	〃	急性大動脈解離 破裂大動脈瘤	循環器疾患を理解する。
7	〃	閉塞性動脈硬化症 閉塞性血栓血管炎 動脈閉塞症	循環器疾患を理解する。
8	動悸、不整脈	原因と病態生理 問診のポイント	動悸、不整脈について理解する。

科目名	消化器系疾患	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第4章　11.腹痛　下巻三巻第5章　4.消化器疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	消化器の解剖	構造と機能	消化器の解剖生理について理解する。
2	観察と判断	消化器疾患の観察	消化管疾患の観察の point を理解する。
3	消化器疾患の症状	腹痛、吐血、嘔吐、下痢、便秘、腹部膨満、食欲不振、黄疸	消化器疾患の所見について理解する。
4	主な疾患	食道静脈瘤破裂 急性胃粘膜病変 胃十二指腸潰瘍	消化管疾患について理解する。
5	〃	マロリー・ワイス症候群 アニサキス症 消化管癌	消化管疾患について理解する。
6	〃	消化管穿孔 イレウス 上腸間膜動脈閉塞症	消化管疾患について理解する。
7	〃	虚血性腸炎、小管憩室症、急性虫垂炎、腹部ヘルニア	消化管疾患について理解する。
8	〃	急性肝炎、劇症肝炎、胆石症、急性膵炎、肝癌	消化管疾患について理解する。

科目名	泌尿器系疾患等	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章　5.泌尿・生殖器系疾患　6.代謝・内分泌栄養系疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	泌尿生殖器	構造と機能	泌尿器生殖器の解剖生理について理解する。
2	〃	症状の特徴 主な症状	泌尿器の症状について理解する。
3	〃	腎不全の症状 尿路障害の症状	腎不全について理解する。
4	主な疾患	急性腎不全、尿路感染症、尿路結石	泌尿器疾患について理解する。
5	〃	女性生殖器疾患 寛大生殖器疾患	泌尿器疾患について理解する。
6	代謝異常	電解質異常、脱水、栄養不良、ビタミン欠乏症、痛風	代謝異常について理解する。
7	アレルギー	アナフィラキシー アレルギ―性鼻炎 アトピー性皮膚炎	アレルギー疾患について理解する。
8	感染症	インフルエンザ、帯状疱疹、食中毒、性感染症、MRSA、マラリア、結核、SARS	感染症について理解する。

科目名	神経・内分泌系疾患等	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章　1.神経系疾患　下巻Ⅲ編第5章　6.代謝内分泌・栄養系疾患　7.血液免疫系疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	神経系疾患	解剖と生理 観察の判断	神経系疾患の解剖生理を理解する。
2	神経系疾患 主な疾患	脳血管障害 慢性硬膜下血腫	神経系疾患について理解する。
3	〃	髄膜炎、脳腫瘍 ギランバレー症候群 周期性四肢麻痺 てんかん	神経系疾患について理解する。
4	〃	三叉神経痛 顔面神経麻痺 重症筋無力症 筋萎縮性側索硬化症 パーキンソン病、痴呆	神経系疾患について理解する。
5	内分泌疾患	解剖と生理 観察の判断	内分泌の解剖生理について理解する。
6	内分泌疾患 主な疾患	糖尿病 甲状腺機能障害	内分泌疾患について理解する。
7	〃	副腎機能障害 貧血、血友病、白血病	内分泌疾患について理解する。
8	〃	特発性血小板紫斑病 膠原病 播種性血管内凝固症候群	内分泌疾患について理解する。

科目名	高齢者疾患	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章　13.高齢者に特有な疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	高齢者の特徴 加齢による変化	高齢者の特徴について理解する。
2	観察と判断	観察と判断	高齢者疾患の観察の point
3	高齢者に見られる主な疾患	老人性痴呆	高齢者疾患について理解する。
4	〃	急性心筋梗塞 狭心症	高齢者疾患について理解する。
5	〃	肺気腫	高齢者疾患について理解する。
6	〃	嚥下性肺炎 動脈性閉塞疾患	高齢者疾患について理解する。
7	〃	前立腺肥大症 骨粗鬆症	高齢者疾患について理解する。
8	〃	高齢者とのコミュニケーション	高齢者疾患について理解する。

科目名	産婦人科・小児科疾患	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章　5.泌尿生殖系疾患　12.小児の特有な疾患　14.妊娠・分娩と救急疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	小児・総論	小児の特徴 発達による救急疾患の変化	小児総論について理解する。
2	小児・各論	小児に見られる症状の特徴	小児に見られる症状の特徴を理解する。
3		主な疾患(熱性痙攣、髄膜炎、脳炎、クループ、気管支喘息、腸重積、川崎病、SIDS、被虐待児症候群	小児疾患について理解する。
4	高齢者・総論	高齢者の特徴 高齢傷病者への対応	高齢者の特徴について理解する。 高齢者とのコミュニケーションを理解する。
5	高齢者・各論	主な実感(認知症、せん妄、誤嚥性肺炎、肺気腫、脱水)	高齢者疾患を理解する。
6		主な疾患(骨粗鬆症、前立腺肥大、廃用症候群)	高齢者疾患を理解する。
7	産婦人科	妊娠(正常、異常)	妊娠について理解する。
8		分娩(正常、異常) 観察と処置	分娩について理解する。

科目名	精神障害	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	精神疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章　15.精神障害				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	精神障害総論	分類、疫学、主要症候	精神障害総論を理解する。
2	〃	精神疾患傷病者に対する基本的な対応	精神疾患傷病者への基本的な対応を理解する。
3	精神障害・各論	統合失調症	精神障害疾病について理解する。
4	〃	気分障害	精神障害疾病について理解する。
5	〃	器質性精神障害	精神障害疾病について理解する。
6	〃	中毒性障害	精神障害疾病について理解する。
7	〃	その他の精神障害	精神障害疾病について理解する。
8	〃	向精神薬の主な副作用	向精神薬の副作用について理解する。

科目名	疾病救急医学特論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	各種疾患(小児、高齢者、妊産婦等を含む)の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	疾病救急医学				
教科書・教材	該当ページ				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	小児特論	新生児の心肺蘇生法	小児特性を理解した現場活動を理解する。
2	〃	小児の心肺蘇生法	小児特性を理解した現場活動を理解する。
3	〃	小児呼吸器疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
4	〃	小児循環器疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
5	〃	小児消化器系疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
6	〃	小児神経系疾患	小児特性を理解した現場活動を理解する。
7	〃	小児の外傷	小児特性を理解した現場活動を理解する。
8	高齢者特論	高齢者の心肺蘇生法	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
9	〃	高齢者呼吸器疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
10	〃	高齢者循環器疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
11	〃	高齢者消化器系疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
12	〃	高齢者の外傷	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。

13	〃	高齢者代謝性疾患	高齢者特性を理解した現場活動を理解する。
14	産婦人科特論	産婦人科の循環器疾患	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
15	〃	産婦人科の呼吸器疾患	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
16	〃	分娩対応・正常分娩	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
17	〃	分娩対応・異常分娩	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
18	〃	分娩・小児対応	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。
19	〃	分娩後の対応	産婦人科特性を理解した現場活動を理解する。

科目名	一般外傷	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	1 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト 改訂第 10 版				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	総論	自己紹介	救急救命士を目指したきっかけと決意 救急救命士は何をする人か
2	疫学と外傷システム	外傷の患者数 外傷による死亡	外傷の定義、外傷死の時期、L&G 等について理解する
3	受傷機転	受傷機転とエネルギー	高リスク受傷機転について理解する 直達損傷、介達損傷について理解する
4	受傷機転	外傷の分類 主な受傷形態	損傷形態について理解する 受傷形態について理解する
5	外傷の病態生理	侵襲への反応	循環動態について理解する
6	外傷の病態生理	外傷に伴うショック 外傷によるショックに対する輸液	外傷の際にみられるショックについて理解する 適応・輸液のタイミングについて理解する
7	外傷の現場活動	状況評価 傷病者の評価	状況評価について理解する 初期評価～車内活動について理解する
8	胸部外傷	疫学 受傷機転 病態	疫学について理解する 受傷機転について理解する 病態について理解する
9	胸部外傷	主な外傷 現場活動	主な外傷について理解する 現場活動について理解する
10	腹部外傷	疫学 受傷機転 病態 主な外傷 現場活動	疫学について理解する 受傷機転について理解する 病態について理解する 主な外傷について理解する 現場活動について理解する

11	骨盤外傷	疫学 受傷機転 病態 主な外傷 現場活動	疫学について理解する 受傷機転について理解する 病態について理解する 主な外傷について理解する 現場活動について理解する
12	四肢外傷	疫学 受傷機転 病態 主な外傷 現場活動	疫学について理解する 受傷機転について理解する 病態について理解する 主な外傷について理解する 現場活動について理解する
13	四肢外傷	疫学 受傷機転 病態 主な外傷 現場活動	疫学について理解する 受傷機転について理解する 病態について理解する 主な外傷について理解する 現場活動について理解する
14	小児・高齢者・妊婦の外傷	小児の外傷 高齢者の外傷 妊婦の外傷	小児の外傷について理解する 高齢者の外傷について理解する 妊婦の外傷について理解する
15	縊頸・絞頸	縊頸・絞頸とは 観察と処置	縊頸・絞頸について理解する 観察と処置について理解する

科目名	頭部・頸椎・顔面損傷等	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	外傷の受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第6章　4.頭部外傷、5.顔面・頸部外傷、6.脊椎・脊髄外傷 下巻Ⅲ編第5章　10.眼・耳・鼻の疾患				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	頭部外傷	局所解剖 発生機序と病態 種類	頭部外傷について理解する。
2	〃	症状と観察 判断と処置	頭部外傷について理解する。
3	〃	搬送中の注意点 緊急開頭術となる頭部外傷	頭部外傷について理解する。
4	顔面、頚部外傷	局所解剖 発生機序と病態	顔面、頸部の外傷について理解する。
5	〃	症状と観察 判断と処置	顔面、頸部の外傷について理解する。
6	脊椎・脊髄外傷	局所解剖 発生機序と病態	脊椎・脊髄の外傷について理解する。
7	視覚器の主な疾患	緑内障、白内障、網膜剥離	感覚器の損傷について理解する。
8	平衡感覚器の主な疾患	中耳炎、メニエール病、めまい、耳下腺炎	弊校感覚器の疾患について理解する。

科目名	熱傷・運動器損傷等	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	熱傷、運動器損傷等について受傷機転、発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に反映できる。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第5章 8.筋骨格系 9.骨盤外傷 10.四肢外傷 下巻Ⅲ編第6章 13.熱傷、14.化学損傷、15.電撃症・雷撃症、16.縊頸・絞頸				
評価法	試験による評価				
. 成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	熱傷	局所解剖 熱傷の発生機序と病態	熱傷に関して理解する。
2	〃	搬送上の注意点	熱傷に関して理解する。
3	〃	症状・処置・搬送上の注意点	熱傷に関して理解する。
4	電撃症	電撃症の原因、所見、処置	電撃症について理解する。
5	化学損傷等	化学損傷・異物	化学損傷に関して理解する。
6	縊頸・絞頚	縊頸・絞頚	頸部損傷等に関して理解する。
7	運動器損傷	骨盤骨折、四肢外傷	運動器に関して理解する。
8	〃	応急処置、搬送上の注意点	運動器に関して理解する。

科目名	外傷救急医学特論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	2 単位	授業時間	60 時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	外傷救急医学				
教科書・教材	下巻全般				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	交通外傷	頭部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
2	〃	胸部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
3	〃	腹部外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
4	〃	骨盤四肢外傷	交通外傷における現場活動について理解を深める。
5	〃	複数名の外傷	複数名の外傷について理解する。
6	〃	救出困難な外傷	救出困難事例について、その対応を理解する。
7	〃	多臓器損傷	多臓器損傷傷病者の観察と対応および医療機関選定について理解する。
8	労働災害	四肢骨盤外傷	労働災害についてその対応を理解する。
9	〃	頭部外傷	頭部外傷に関してその対応を理解する。
10	〃	胸部外傷	胸部外傷に関してその対応を理解する。
11	スポーツ外傷	四肢外傷	スポーツ外傷に関してその対応が出来るようになる。
12	〃	脊椎脊髄外傷	脊椎脊髄損傷に対して適切な対応が出来るようになる。

13	多数傷病者事案	交通外傷	多数傷病者事案の対応を理解し、その対応が実践出来る。
14	小児の外傷	小児外傷	小児外傷の特性を理解し、その対応が適切に行える。
15	高齢者の外傷	高齢者の外傷	高齢者外傷の特性を理解し、その対応が適切に行える。
16	災害における外傷	多数傷病者	多数傷病者事案の特性を理解し、その対応が適切に行えるようになる。
17	災害における外傷	多数傷病者	災害における特性を理解し、その対応が適切に行えるようになる。

科目名	環境障害と中毒	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	2 年後期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	環境障害学・急性中毒学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第7章　1.中毒特論　2.中毒各論				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	環境障害	溺水	環境障害について理解する。
2	〃	熱中症、減圧症	環境障害について理解する。
3	〃	偶発性低体温、凍傷	環境障害について理解する。
4	〃	酸素欠乏症	環境障害について理解する。
5	中毒学総論	中毒とは、原因物質、病態生理	中毒学総論について理解する。
6	〃	観察と判断 中毒情報センター	中毒学総論について理解する。
7	中毒各論	医薬品中毒、農薬中毒、工業薬品中毒、ガス中毒	中毒学各論について理解する。
8	〃	アルコール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、覚醒剤中毒	中毒学各論について理解する。

科目名	環境障害・中毒学特論	授業方法	講義	実務経験のある教員科目	
履修時期	3 年前期	授業単位	1 単位	授業時間	30 時間
教育目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、処置及び搬送法に関する知識を系統的に習得する。				
教育内容	環境障害学・急性中毒学				
教科書・教材	下巻Ⅲ編第7章 1.中毒特論 2.中毒各論 4.溺水 5.熱中症 6.偶発性低体温症 8.その他の環境障害				
評価法	試験による評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	環境障害	溺水	環境障害における現場活動ついて理解する。
2	〃	熱中症、減圧症	環境障害における現場活動について理解する。
3	〃	偶発性低体温、凍傷	環境障害における現場活動ついて理解する。
4	〃	酸素欠乏症	環境障害おける現場活動について理解する。
5	中毒学総論	中毒とは、原因物質、病態生理	中毒学総論について理解する。
6	〃	観察と判断 中毒情報センター	中毒学総論について理解する。
7	中毒各論	医薬品中毒、農薬中毒、工業薬品中毒、ガス中毒	中毒学各論における現場活動について理解する。
8	〃	アルコール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒、覚醒剤中毒	中毒学各論における現場活動ついて理解する。

科目名	シミュレーション実習Ⅰ	授業方法	実習	実務経験のある教員科目	○
履修時期	1 年前期	授業単位	7 単位	授業時間	315 時間
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
教育内容	臨地実習				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト（へるす出版） 救急技術マニュアル（東京法令出版） JPTEC ガイドブック				
評価法	出席、試験、レポート、、実習態度等による総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	オリエンテーション	実習室の使用に関して 資器材使用に関して	実習を行う上での注意事項を把握する。
2	規律訓練・体力錬成	規律訓練、ロープワーク、 体力錬成	訓練礼式を習得する。ロープワーク、結紮を習得する。
3	消防見学実習	消防署・救急自動車見学	消防について理解をする。
4～9	救急法講習	赤十字救急法救急員養成講習	赤十字救急法救急員の資格取得を目指す。
10～15	BLS	成人 小児 乳児	成人に対する一次救命処置を実施できるようになる 小児に対する一次救命処置を実施できるようになる 乳児に対する一次救命処置を実施できるようになる
16～20	観察	意識状態の観察 血圧測定 その他の観察	JCS、GCS を用いた意識状態の判断ができるようになる 迅速かつ正確に血圧測定が実施できるようになる 呼吸、脈拍、瞳孔等の観察が実施できるようになる
21～23	応急処置	被覆と固定	三角巾を用いた被覆と固定が実施できるようになる
24～30	教授法	心肺蘇生法普及指導法	心肺蘇生法の指導法を習得し実践出来るようになる
31～32	搬送法 体位管理	徒手搬送、資器材搬送、 体位管理と保温	搬送、体位管理について実践出来るようになる
33～64	CPR 活動要領	CPR 活動要領	救急隊として CPR 活動を出来るようになる

65～84	外傷活動要領	JPTEC に準じた活動	救急隊として外傷活動を出来るようになる
85～90	総合実習	CPR 活動要領 JPTEC に準じた活動	救急隊として CPR 活動を出来るようになる 救急隊として外傷活動を出来るようになる

科目名	シミュレーション実習Ⅱ	授業方法	実習	実務経験のある教員科目	○
履修時期	2 年前期	授業単位	13 単位	授業時間	585 時間
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
教育内容	臨地実習				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト、救急現場のピットフォール／内因性疾患（荘道社） 救急現場のピットフォール／外因性疾患（荘道社）、応急手当指導者標準テキスト（東京法令出版）				
評価法	出席、試験、レポート、、実習態度等による総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	救急救命士の 行う処置	器具を用いた気道確保 気管挿管	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得
2	〃	循環管理・呼吸管理 患者管理モニター	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得
3	〃	静脈路確保 薬剤投与シミュレーション	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得習得する
4	〃	救急救命士の行う CPR 活動 血糖測定、ブドウ糖投与	救急救命士の行う処置について知識及び手技の習得する。
5	コミュニケーション スキル	救急手話 接遇対応	手話による現場活動、傷病者関係者接遇要領を習得する。
6	現場活動 プロトコール	内因性疾患対応（PEMEC、 PSLS、PCEC）	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。
7	〃	救急活動（外傷） 救急活動（内因性疾患）	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。
8	〃	総合シミュレーション	現場活動プロトコールに準じた現場活動を習得する。

科目名	シミュレーション実習Ⅲ	授業方法	実習	実務経験のある教員科目	○
履修時期	3 年前期	授業単位	9 単位	授業時間	405 時間
教育目標	修得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践能力を身につけ、メディカルコントロールの重要性を確認し、傷病者に対する適切な態度を習得し、医師とともに救急医療を担う医療従事者としての自覚と責任感を養う。				
教育内容	臨地実習				
教科書・教材	救急救命士標準テキスト（へるす出版）、救命救急事例集50選／救急現場カルテ第Ⅱ集（荘道社） 病院前精神科救急 55 事例から学ぶ対応テキスト				
評価法	出席、試験、レポート、、実習態度等による総合評価				
成績評価	80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可で表し、60 点未満は不可とする。				

授業内容

回数	大項目	中・小項目	学習目標
1	現場活動 プロトコール	基本	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
2	〃	基本	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
3	〃	応用	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
4	〃	応用	現場活動プロトコールに従った現場救急活動の習得。
5	現場対応	不搬送事案、搬送困難事案、	現場活動における困難事案に対する対応について習得する。
6	災害	先着隊対応、現場評価、トリアージ、現場トリアージ、救護所トリアージ	災害における先着隊活動、トリアージ（START 法、PAT 法）、救護所の役割、搬送トリアージについて実践できるようになる。
7	災害	搬送トリアージ	災害における先着隊活動、トリアージ（START 法、PAT 法）、救護所の役割、搬送トリアージについて実践できるようになる。
8	院内蘇生対応	ICLS	院内における急変対応について的確に実施することが出来るようになる。また、医療機関における蘇生チームの一員として活躍できるようになる。